

第3章

地域とともに



あった。

62年8月には見直しの報告を受け「児童館職員研究会の運営について」を作成し、新たな位置づけのもとに研究会が開始された。研究会は自主的な勉強会とは違い研修の一環であり、研修では補いきれない専門性の蓄積を図り、研究した内容を実践に生かし、その実践を積み上げていくものであるとした。個人がやりたいからやる、やりたいものだけやるのではなく、自主的な運営の中で児童館のあり方という大きな方向で、児童館全体の今の課題を含めて行うこととした。テーマは職員の研究希望テーマをもとに女性・青少年課で時代にあった課題を設定し進めている。



発表会の様子

研究期間が1年であるため、思うような研究結果まで進まないこともある。しかし、今までにそれぞれの研究結果は実際の館活動に生かされてきた。例えば、実技研究においては、まだ研修体系が十分に整っていなかった時期には、新しい創意工夫のある遊びや工作やさまざまな活動内容を具体的に現場に示し、実践されていった。

“児童館の建築構造”の研究会で研究整理してきたことは、児童館が建設される際の参考となり、図書購入においては“児童図書”研究会の報告が参考となったなどそれぞれの研究会の成果が具体的に仕事に生かされてきた。また、理論的な研究会においても、進行上さまざまな悩みを抱えながら、その時代の課題を論議し、児童館のあり方を深めていく基礎となっていた。

マンネリズムに陥りがちになる中で、さまざまな実践から仕事を見返し検証していくことは、1人1人にとって刺激となり仕事への意欲につながり、活動の支えとなっている。

研究の結果は目に見えるものだけとは限らないため、成果がすぐには現れないこともあるだろう。しかし、これからの社会状況に的確に対応できる児童館活動を作りあげていくために、職員が熱意をもって自らの仕事を研究していくことは今後とも重要となってくるであろう。

学童クラブに支えられて

与那城 礼子（向台学童クラブ父母）

仕事を終えて、下の子を保育園に迎えて帰宅する頃、1年生の息子も学童クラブから帰宅します。

1年前、学校と学童クラブ、何もかも新しい環境の中で頑張らせなければならぬかと思うと心配も募ったことを思い出します。鍵は首に掛けるのが良いのか、ランドセルの方が良いのか、から始まり、雨が降った時は、など「カギっ子」ならではの親の悩みも随分ありました。

でも、悩みばかりではありません。学童クラブに通っているからこそ得られる素敵な体験もいろいろありました。

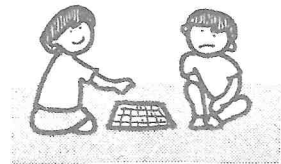
嬉しかったのが、日曜参観や、普段の日の授業参観に学童の先生が顔を出してくださったことです。私が都合がつかず行けなかった時、その日の連絡帳に『健多君は大きな声でしっかり本を読んでいた。』と書いてくださいました。授業参観に来てくれないと不満を漏らしていた息子も、「学童の先生が見に来てくれたから嬉しかったよ。」と言われ、わたし自身も嬉しくなったことを思い出します。

また、学童クラブには子ども同士、縦の関係もあります。年下だからと、優しくしてもらえるばかりではありません。いやな思いもしながら、うまくやっていく知恵も身につけていくようです。父母の会で、運動会やバーベキューをしたり、遠足に出掛け、親同士が仲良くなると、いつのまにか子ども達も仲良くなっています。学年を越えて仲良しになれる場が学童クラブにはあります。その陰には、連日弛みない先生方のご指導があってこそと確信しております。

この頃は、ファミコンばかりして家に閉じこもって困るという家庭の悩みもよく耳にしますが、我が子は学童クラブでたくさんの仲間と遊ぶので、ファミコンの必要もないようです。そして、いまは縄とびに夢中です。次々と検定に合格しようと、毎日寒い中を5時近くまで猛練習をしているとのこと。

学童の先生には環境整備に力を注いでいただいたり、おやつに手作りの軽食を用意していただいたり、子ども達の縄跳びにつきあっていただいたり、いつも頭のさがる思いでいっぱいです。

学童クラブで大きく支えられていることに親子共々感謝しつつ、更に期待を寄せているところです。



学童クラブは、保護者の就労等の理由により、放課後に保護を受けられない小学校1～3年生の放課後の生活の場です。

熱血キッズをやって
～新井薬師児童館キッズチャレンジ
実行委員をやって～
留目 梨沙 & 田村 菜々子

児童館の行事は、多くの子ども
実行委員・大人実行委員の活躍に
よって支えられています。

キッズチャレンジ92の実行委員「熱血キッズ」に一緒になった2人は、一週間ぐ
らい考えて、たからさがしをやることにしました。

(二人の作文より抜粋)

一週間ぐらいかけてたからをかくすための、シュレッターで切った紙をいろいろ
なぎんこうを回って、大きいビニールぶくろ10コ分ぐらい集めました。足がたく
たになるくらいたくさんさんのぎんこうに行きました。

次は、けい品をあつめました。最初はまず家にある、ポケットティッシュ、ノー
トなどいらぬもの、次に薬局に二人で行って「なにか、けい品みたいなものあり
ますか。」と聞いたら、全部で30個の定規やおもちゃが入っている袋をくれま
した。そのおもちゃをくれなかったらきつと、けい品を集めるのがすごく大変だ
ったと思います。けい品の大き当たりは、クレープ(生クリームとチョコレート)で、
大き当たりが薬局とか家で集めたもので、ハズレはポケットティッシュです。

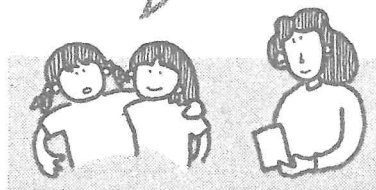
さあ、キッズチャレンジ92の始まり。受付で券をもらった人たちがどんどん来ま
した。一人がチェック、一人は賞品をわたす所。

当日、お客さんは、いっぱいきてくれたのでうれしかったです。でも一つこまった
ことがありました。それは、前半にほとんど大き当たりが出てしまったので、後半の
分があるかとしんぱいしていたら、急にはずれが多くなってきたので、ほっとしま
した。あと、クレープを作る時、生クリームが多かったりチョコレートが少なかつ
たりしたので、量を同じにするのが、むずかしかったです。最後のかたづけに、あ
まったけい品は、そのへんにいる、小さい子(3才～5才)にあげました。生クリ
ームは、最後の子にラップにつつんであげました。そうしたら、いっぱい人がきた
ので、その子たちにも、チョコレートをかけてあげました。かたづけは、ちらばつ
た紙をほうきではくのが一番大変でした。

どうして実行委員をやろうと思ったの？
友達がいっしょにやろうといった
おもしろそうだったから
こういうものをやろうという考えがあったから

実行委員をやって自分にどう影響がありましたか？
あそびについて、いろいろなことがわかった
児童館に来ることが多くなった
いろんな友達ができた

実行委員をやってみてどうでしたか？
楽しかった
たくさんお客が来てくれてうれしかった
たいへんだったけどおもしろかった
また何かあったらやってみようと思った



橋場ふれあい、ウクレレクラブ
澤 静子

橋場児童館の幼児グループのお母さんたちを中心にしてできた「ウクレレ」の自主グループです。

4年前、橋場児童館の幼児グループでお世話になっていた時、クリスマス会できよしこの夜をウクレレで演奏してみようと思ってもよらない、すばらしいアイデアで先生に誘って頂いた事が切っ掛けです。この時、児童館行事に日本ウクレレ協会常任理事の渡辺直則先生と一緒に「ウクレレ演奏を楽しんでみませんか」があり、現在もご指導頂いている渡辺先生との出会いもこの時でした。練習のかいあって、クリスマス会も楽しく過ごせました。

子ども達の入園後もその時のメンバーが児童館に集まり練習を続けていました。しばらくして児童館の行事(橋場まつり)や地域の方々とのふれあいの会に参加させて頂くようになり、これがサークルとしての最初だった様に思います。

生き生きとした表情の子ども達と一緒に歌い、練習の成果を発表する場としてだけでなく演奏を通し充実した時を過ごしたり、地域の方々とふれ合う機会として、平成2年12月桃園地域センターで行われた児童館ステージ27選「トロピカル クリスマスコンサート」がありました。自分達の未熟さをすっかり忘れ、すばらしい演奏を堪能してしまいました。

3月には「ボランティアコーナー」で地域の方々との交流を深めることが出来ました。5月には区の「講師謝礼の一部助成制度」へ申請して学習及び相互交流の機会も更に充実させて頂くことが出来ました。9月は堀江老人福祉センターで敬老の日のふれあい、音楽会で、12月には同センターのクリスマス会、この時も出演されたコーラスの方々やフォークダンスの方達と一緒にフィナーレのキャンドルサービスもご一緒させて頂くなど楽しく過ごすことが出来ました。

私達のサークルは常に児童館の方々の熱心な働きかけ、計り知れない思いやりがあって更に子ども達や地域のボランティア活動をしているの方々、各々のセンター利用者の方々とは広く交流をはかる事で支えられ、続いて来たのではないかと深く感謝しております。「みかえりは子供達の笑顔」と頑張っていたジャリパラの委員の人達、地域に根差した活動をしたと考える若い人達と一緒に色々考えていきたいと頑張る南部青年館の方々、すべてウクレレの演奏を通し触れ合うことが出来た方々です。

メンバーも転勤、卒業といろいろな事情で少なくなり、区の助成制度を続けて申請する事は出来ませんでした。最近新メンバーも加わり文化センターでの「ふれあいの集い」にむけ練習しています。

子育て中で時間も思うように取れず悩みの種ですが、今後も子供から大人まで広く地域に開放された児童館の行事を中心に形にとらわれず、(技術向上も)ウクレレの演奏を通じ伸びやかなところを育てるお手伝いと、心身ともにゆとりのあるふれあいのかかわりを続けて行ければと思います。

少しでも地域に貢献できればこの上ない幸せと思っています。

子どもの夢をかなえるために
親父の会 小木曾仁夫 児童館ではお父さんもがんばっています

野方児童館ができてから夏の行事として、小屋作りキャンプに取り組んでいました。小屋作りキャンプで学童クラブの子どもたちにも同じ楽しみを持たせてあげたいとの親の思いで、職員と話し合い、学童クラブの父親が主となって一つ小屋を作りました。そして翌年から小屋作りキャンプには父親の小屋を作るのが恒例となりました。その後父親の小屋は夏休み中は残し、子どもたちの遊具となっていました。

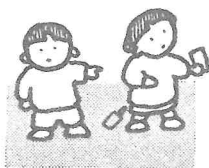
児童館で汗を流した後は想像どおりのコース。冷たい麦のジュースが入って話はいつしか教育談義。家に帰っても会社帰りの一杯とは大違い。これに味をしめて何か名前をつけて公認させようと作ったのが親父の会。母親にすれば粗大ゴミよりは児童館でワイワイやってくれた方が良いでしょう。本人達は活動が認められたと思ひ込み続けています。

現在メンバーは学童クラブ現役、OBの父親、それに児童館を利用する子の父親。活動は児童館行事を中心に集っています。子どもたちの大きな夢を少しでも児童館で実現出来ればと思っております。

乳幼児親子を対象とした活動を
「幼児グループ」などの名称で定
期的におこなっています

幼児グループ
—忘れられない思い出—
上高田児童館利用者父母 川口 秀子

今から5年前、長女が2歳の時上高田児童館はオープンしました。館内はとても広く、窓から差し込む日差しに目を細めるほどの明るさ、冷暖房完備という申し分ない設計に加え、乳幼児の玩具も豊富にあり、何よりも雨の日でも思いっきり遊べるということが最大の利点だと思いました。それまで家の近くに公園がなかったため、遠くまで足を運んでいたのととてもうれしかったのを覚えています。当初子供も私も多少の戸惑いはあったもののそんなことはどく吹く風、子供はすぐに慣れ、私も友達が出来ました。乳幼児を対象に幼児グループが始まり、参加した親子はざっと41組、親子体操をしたり、運動会や遠足、先生が絵本や紙芝居を読んで下さったり、幼稚園さながらといったところでしょうか、お楽しみ会ではカレーやフランクフルトを食べたり、楽しかった思い出が走馬灯のようによみがえります。昨年、長女の入学式の時「以前幼児グループでご一緒でしたよね。」「ああそういえば。もう1年生なんて早いわねえ。」と、2年ぶりに会った方とも会話がはずんだのは、乳幼児期の一番手がかかる時期に共に怒り共に笑い遊ぶことが出来たからだと思ひます。



その子たちもこの春から2年生。ピーピー泣いていた子も今では、一輪車を乗り回すほどに成長しました。わが子の成長を語るとき、上高田児童館はなくてはならない存在になりました。

長女も幼児グループに参加したことは忘れられない一生の思い出です。

冬まつり

江古田1丁目子供会リーダー 須藤賀子(高校生)

私たち子供会リーダーは、毎年恒例のようにみずの塔ふれあいの家でキャンドルサービスをやっています。

今年は中学生と高校生の日程が合わずに、十分な話し合いができないので、毎年サンタが最後に配るアメを包んだり、ろうそくを作ったりしながら踊りやゲームを考えました。

今年は中学生が司会や係の説明、サンタや女神になってくれました。メインとなるキャンドルは火を使うので一番心配でしたが、これも中学生がとても注意して頑張ってくれたので、一人もやけどをせず、とてもきれいなキャンドルサービスとなりました。

年々、参加してくれる子どもが少なくなってきて、寂しい気もしていますが、これからも楽しいキャンドルサービスにするよう頑張ります。

みずの塔ふれあいのお家の行事「冬まつり」には地域のいろいろな団体が参加しています。子供会もそのひとつです。

地域のいろいろな特技をもった方に活躍していただいています。宮の台児童館では「おばあちゃんの手」を行っています。

おばあさんの手と言う題目での行事ですが、これは子供達だけでなくおばあさんにとっても意味深いです。まだまだ役に立つ事が出来るかと生かす感じが曲がった腰も伸びるかもしれない。一年に一回だけでなく、材料も廃品の中にかせる物もあるか知れないです。お正月の門松の竹は竹細工に利用出来ます。おじいさんの手と言うところ。古毛糸をくさりあみしてあやとりしたり、何度か児童館で布袋を作り、実用的で親子に喜ばれた様でした。

現在宮の台児童館は改築中で鍋横センターに間借りしています。行ってみますと子供達が来勢来ていて活気があります。お手玉作りに集まった中には男の子も多く、幼い一年生もいました。先生から針に対する注意を受けて糸を通すことから始まり、一針一針黙々と縫っていく子、一寸上手な子、それぞれ袋になって小豆を入れてもらって仕上げます。糸結びは大変難しいです。昔私の子供のころは三年生になると裁縫の時間があつて先ず運針ばかりでした。一日で作ろうとするのが無理ですが作ります。とても楽しんで作ります。何とかそれらしい物二個作って両手で廻し投げして遊びました。

先日、宮の台児童館から「おばあさんの手」と言うことで伝統的な遊びのようなものをしてくれないか、とのお電話を頂き、友達のお飯田さんにもお声をかけたところ、大変喜ばれ参加したいとの事でした。そして、遊べるものとお手玉作りをすることになりました。飯田さんは家にあつたからと小豆と布を下さって当日を待っていたのに、お使い帰りに転んで右手首骨折と言う怪我をされました。残念でした。

おばあさんの手

本町五丁目 堀沢 久子